情報公開文書

研究の名称	早期胃癌に対する S-0 クリップ牽引法を用いた内視鏡的粘膜下層剥離術の検討
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院第三内科教授・安田一朗
研究の概要	<p>【研究対象者】 2015年4月1日から2025年4月30日の期間に当院において早期胃癌に対する内視鏡的切除を実施された方</p> <p>【研究の目的・意義】 内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は、早期胃癌に対する標準的治療法として広く用いられていますが、視野の確保や粘膜下層剥離操作に高度な技術を要するため、手技上の困難さが課題となっています。この課題を克服するため、様々な牽引補助法が試みられてきました。しかし、従来されてきた糸付きクリップの牽引法は牽引方向が一方向に限定されており、胃のESDにおいて最適な牽引方向や方法は確立されていません。本研究では、新たに開発された多方向牽引デバイス「クリップ付きスプリングアンドループ（SLC）」を用いた牽引補助ESD（SLC-ESD）が、従来のESDと比較して手技関連成績を改善したかどうかを早期胃癌患者を対象に検討します。</p> <p>【研究の方法】 診療録の情報を用いて治療成績を後方視的に検討します。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2026年04月30日</p> <p>【利益相反の状況】 本研究に関係する企業等は存在しないため、本研究において申告すべき利益相反はありません。</p> <p>【研究結果の公表の方法】 結果の如何に関わらず、研究成果は公表し、学会発表および英文誌への論文投稿を行います。この際に個人のプライバシー保護には十分な注意を払って、個人の特定につながる情報は公表しません。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	電子診療録より以下の情報を使用し、処置時間、年齢、性別、既往歴、内服歴、病変部位、病変サイズ、肉眼型、周在性、治療日、処置時間、偶発症の有無・種類、在院日数、使用した内視鏡機種、止血方法、一括切除率、偶発症(ESD後出血、穿孔など) 本研究では他機関への資料提供は行いません。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び機関の長の職名・氏名	富山大学附属病院 病院長 山本 善裕
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者 (研究代表機関における研究責任者の所属・氏名)	富山大学附属病院 第三内科 教授 安田一朗

研究対象者等（研究対象者および親族等関係者）からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 080-6365-0865 G-mail yukidj0406@gmail.com 担当者所属・氏名 第三内科 田尻 勇気
------------------------------------	---